

清潔で、勇断できる政治を。



幸福実現党

幸福実現NEWS

THE HAPPINESS REALIZATION NEWS

発行所 幸福実現党本部
〒107-0052 東京都港区赤坂2-10-8
電話 03-6441-0754
©幸福実現党本部2018年
平成30年1月12日

[党員限定版]
第83号

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、10月の衆院選、全国での地方選など
多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

今後とも国政選・地方選 勝利に向け、
全力を尽くしてまいりますので
本年一年、よろしくお願いいたします。

釈 量子



日々これ決戦！2018

変わらぬ、日本の国防危機

2017年は、日本が北朝鮮の軍事的脅威にさらされ続けた一年でした。年初から15回に及ぶミサイル発射、そして9月には水爆実験を強行しました。北朝鮮の大陸間弾道弾（ICBM）がアメリカ全土を射程に入れるのも時間の問題で、「来るところまで来た」と感じています。北朝鮮の若き指導者が、核で世界を脅す――。まさに、現代の悪魔の所業です。

日本政府はようやく、イージス・アショア等の装備を導入し、長距離巡航ミサイルの開発を考えるようになりました。ミサイル避難訓練の実施や、核シェルター配備の検討を進める向きもあります。

これらは紛れもなく、トランプ米大統領の対北政策を支持し、日本も協力して朝鮮半島の非核化に役割を果たすべきと発信してきた大川隆法党総裁や、各所で啓蒙活動に尽力された党員・支援者のお訴えがあつてこそ「変化」です。

しかし、この国は変わったのでしょうか。いや、根本においては変わっていません。

昨年末、長崎県・対馬や、新潟県の佐渡島、石川県の能登半島で、地元の行政関係者や住民の皆様からお話を伺いましたが、北朝鮮船籍の木造船や遺体が相次いで漂着しているにもかかわらず、自治体関係者は「国

からの指示がないから動けない」と言います。漁業関係者等の一部を除き、住民からもほとんど危機感が見られず、与党自民党議員であっても、「末端の議員には切迫感はほとんど伝わってこない」と言っている状況です。まだまだ、「自分の国を自分で守る」と言える状況からは程遠いと痛感しました。

中国民主化に向けて、 宗教政党的存在は不可欠

しかし、時代の潮流は大きくうねろうとしています。

立党以来、中国の民主活動家の方々と交流していますが、「中国共産党は、北朝鮮同様、激しい人権弾圧を行っている」と口々に言っています。ある人権活動家の妻は「夫は水牢に入れられ、横になることもできず、皮膚が裂ける拷問を受けている」と悲痛な叫びを上げていました。秦の始皇帝さながらの独裁大国です。

こうした中国にも、反・中国共産党の革命の萌芽が予見されます（「洪秀全の霊言」[※]）。劉曉波氏はじめ、民主化を求めた人々が、一粒の麦となり、不毛に見える唯物論・無神論国家を、緑あふれる大地に変えようと信じています。北朝鮮と中国が民主化されれば、日本海側や九州、沖縄に、新しい繁栄が生まれるはずです。

北朝鮮危機の後には必ず、独裁国家・中国と向き合う時期がやってきます。中国の軍事拡大に立ち向かい、「自由」や「民主主義」という神の望む価値観を根付かせるためには、私たち宗教政党的存在が絶対に必要だと確信しています。

2018年、決死の覚悟で戦う

また、中国が経済力で、アジアやヨーロッパ、アフリカを抱き込もうとしているということを見ても、ここ数十年で疲弊した日本の経済を復活させる意味は大きいです。

昨年末「トランプ減税成立」というニュースの横で、日本は、実質的な所得増税、森林環境税、たばこ税、観光促進税など、増税ばかりが並べられます。アベノミクスはもはや、「増税」「バラマキ」を軸とした社会主義政策に変容しています。

経済政策の基本は「安い税金」ですが、そういう声は巧妙に押し殺されております。私たちが声を上げ続けなければ、増税国家にまっしぐらです。「日本の経済をもう一度、復活させてほしい」と願う国民の受け皿として、この数十年の停滞に潜むマルクス主義の“亡霊”と戦い、所得を増やせる、新しい富を創造できる政治を、ここから始めたいのです。

無明の闇に沈まんとするその時にこそ、真実の光が見いだされます。全国で多くの地方議員を輩出し、何としても国会の議席を獲得し、理想の政治を創っていかうではありませんか。何があろうと決して諦めず、「あると思うな、明日の命」を合言葉に、本年も戦ってまいり所存でございます。

※2017年12月1日に収録された、
大川隆法党総裁による霊言

〈幸福実現ニュース〉は幸福実現党の機関紙です。1、2面はネットからダウンロードもできます（無料）。

PDF版ダウンロード（無料）はこちらから

<http://info.hr-party.jp/newspaper/>

勝負の年を駆け抜け、 次期参院選勝利へ！

2018年の幸福実現党の戦い方について、
松島幹事長に聞きました。



松島 弘典 幹事長(兼 選対委員長)

まつしま・ひろのり
1957年生まれ。東京都立大学(現・首都大学東京)工学部卒業。三菱商事(株)入社後、ナイジェリア三菱商事会社、輸出貿易部門勤務。1994年、幸福の科学に奉職。理事長、拠点開発局長などを歴任。

組織体制を整え、さらに前進していく

党員の皆様、明けましておめでとうございます。昨年、衆院選や地方選にご支援賜り、誠にありがとうございました。

2017年は、新しい県本部体制のもと、地方選において数々の議員を輩出いたしました。衆院選

においては皆様のご期待に沿えなかったことを心よりお詫び申し上げます。衆院選では、私たちが2009年の立党以来、警鐘を鳴らし続けてきた北朝鮮危機が現実のものとなり、一触即発のなかの選挙で、国難打破のために「憲法9条改正」「消費税を5%に」などを訴えてまいりました。結果、比例区においては以前の得票率を多少上回る程度、小選挙区においては倍程度の伸びと、不本意な結果となりました*。記者会見や街宣、党首への取材がヤフーニュースに取り上げられるなど、前回参院選に比して、ネットメディア

上の報道記事が10倍以上に増え、私たちの主張の広がりを実感するも、明確な得票増という形とはなりません。こうした幸福実現党に対する報道量の増加を、今後、しっかり得票へとつなげてまいります。

また、2017年は、党員制度を大きく改革することにより、特別党員や家族党員、党友の方々が誕生し、あらたな活動の流れが生まれてまいりました。都道府県本部組織も2年目を迎え、選対を強化しつつ、来る地方選及び国政選をしっかりと戦ってまいります。

2018年は“勝負の年” 国政選に、地方選に党勢を拡大しよう

さて、2018年は、幸福実現党にとって“勝負の年”であると党関係者一同、腹をくくっております。地域に根付き、地方行政をより皆様の暮らしのためとなるよう、2018年の地方選、2019年4月の統一地方選、7月の参院選、さらにはその次の衆院選に向けて、「日々これ決戦」の覚悟で進めております。そして、“今世紀最大の大勝負”である次期参院選において、これまで活動の力を結集させ、必ずや議席獲得を成し遂げてまいりたい決意です。

衆院選では報道量が10倍となり、月刊BOSS臨時増刊号の『一冊まるごと幸福実現党』がコンビニの一角に並ぶなど、世間の注目は確実に高まっております。あとは、私たちの活動が周知されるまで、徹底的に汗を流してまいりましょう。

今後とも、私たちは国政選・地方選に候補者を擁立し、選挙を戦ってまいります。ぜひとも、皆様の力強いご支援をよろしくお願い申し上げます。



※比例区は2014年の衆院選、小選挙区は2012年の衆院選と比較



人種、文化、政治、そして宗教——
さまざまな価値観の違いを超えて、
この地球は
“ひとつ”になれる。

幸福の科学グループ創始者 兼 総裁
幸福実現党創始者 兼 総裁

大川隆法 著

定価 2,160 円(税込) 幸福の科学出版

- 第1章 信じる力——人生と世界の新しい現実を創り出す
- 第2章 愛から始まる——「人生の問題集」を解き、「人生学のプロ」になる
- 第3章 未来への扉——人生三万日を世界のために使って生きる
- 第4章 「日本発世界宗教」が地球を救う——この星から紛争をなくすための国造りを
- 第5章 地球神への信仰とは何か——新しい地球創世記の時代を生きる
- 第6章 人類の選択——地球神の下に自由と民主主義を掲げよ

著作 2300 書 突破！
世界100カ国以上(29言語)に
愛読者を持つ著者渾身の一書！

信仰の法

地球神エル・カンターレとは

